

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
什	ジュウ ①		𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
仁	ジン ニン 教6常①	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
仏	フツ ほとけ 教5常①		𠂇	𠂇			𠂇	𠂇	𠂇
佛	人②						𠂇	𠂇	𠂇
以	イ おも うも つち もち いる 教4常①	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
目	イ ④	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
已	イ すでに やめる やむ のみ ②	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
仕	シ ジ つか える 教3常①		𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
仔	シ 人①	𠂇	𠂇	𠂇			𠂇	𠂇	𠂇
仙	セン 常①		𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
僊	セン ②		𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇

【仏・佛】「仏」は遅くとも中国の南北朝の頃には使われていた。日本では「仏・佛」両方が使われてきた。康熙字典では「仏」は「佛」の古文と「人」の2画の両方に載っている。
【以】「以」と「目」は異体字。「已」は「以」、「目」と音も意味も似ているが「すでに」「やめる」という意味もある。「目」

は「目」に「人」を加えた字だといわれる。「以」は、「目」に「人」を加えた字だといわれる。金文には「目」に「手」とおもわれるものを加えた字もある。「已」は「目」を天地逆にした形で、それで(仕事を)「やむ」という意味を持ったのではないだろうか。睡虎地秦簡や馬王堆は、「目」を横に倒した形で

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
什	什	什	什				什					什 中・台・香
仁	仁	仁	仁	仁			仁	仁		仁	仁	仁 中・台・香
			𠂇									
			𠂇									
佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛		佛	佛	佛 中・台・香
仏	仏	仏	仏									
以	以	以	以	以			以	以	以	以	以	以 台湾・香港 中国
			目									目 中・台・香
已	已	已	已	已			已					已 中・台・香
仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕 中・台・香
			仕									
仔	仔	仔	仔	仔			仔					仔 中・台・香
仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙			仙 中国・台湾
			僊									仙 香港

「人」とおもわれている部分は「目」の柄ではないだろうか。「已」は漢代から唐代までは「巳」と字体が衝突していた。
【仕】「仕」は「土」と「士」の2種類がある。隷書は「土」が多数。北魏の楷書は「土」が多数。唐代楷書は「土」が多数。日本では江戸時代まで「土」が多数。正字は「土」。弘道軒は

「土」のみ。漱石は「土」と「士」の両方を使用。
【仔】甲骨では「保」と字体が衝突している。漢代以降、中国での使用例が見えない。日本では江戸期に突然出現。
【仙】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。説文では「僊」を使う。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
他	タ ほか		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	他
佗					𠂔			他	佗
代	タイ・ダイ かえる かわる しる よ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	代
付	フ つく つける	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	付
令	レイ リョウ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	令
伊	イ かれ これ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	伊
仮	カ かり		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	假
假				𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	假
会	カイ エ あつま あつめる	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	會
會		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	會
企	キ くわだて たくらむ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	企

【他】異体字の「佗」は包山楚簡の字体と似ている。
 【令】隷書や初唐の楷書では最終画が縦線。戦国古璽では「令」に「口」を加えて「命」とすることもあったらしい。
 【仮】康熙字典には「仮」と「假」は別字として載っているが、それとは別に日本では「假」の草書からできた「仮」が

あり、字体衝突した。江戸版本では「仮」と「假」の使用頻度は半々ぐらいである。中国では現在も「仮」と「假」は別の字種。
 【会】常用漢字の字体は草書かできたものと思われる。五経文字に、説文篆文に忠実な字体と石経の字体の両方がある。

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
他	他	他	他	他	佗		他	他	他	他		他
			佗									他
代	代	代	代	代			代	代	代	代		代
付	付	付	付	付			付	付	付	付		付
令	令	令	令	令	令		令	令	令	令		令
												令
伊	伊	伊	伊	伊			伊	伊				伊
			𠂔									伊
仮	仮	仮	仮	假	仮	仮	假	假	假	假	假	假
			假									假
会	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會		会
	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會		会
企	企	企	企	企			企	企				企
	企	企	企									企

【企】「止」と「山」は草書で書くとき似ているのでよく混同される。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
伎	キギ わざ		伎	伎	伎	伎	伎	伎	
休	キユウ やすむ やすまる やすめる いこう	休	休	休	休	休	休	休	休
	やめる	休	休	休	休	休	休	休	休
				休			休	休	休
仰	ギョウ コウ あおく おおせ		仰	仰	仰	仰	仰	仰	仰
							仰	仰	仰
件	ケン くだり くだん		件				件	件	件
伍	ゴ	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍	伍
仲	チュウ なか		仲	仲	仲	仲	仲	仲	仲
			仲	仲	仲	仲	仲	仲	仲
伝	デン つたう つたえる つたわる	伝	伝	伝	伝	伝	伝	伝	伝
傳		傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳
任	ニン まかす まかせ	任	任	任	任	任	任	任	任
		任	任	任	任	任	任	任	任

【伎】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。干祿字書では「技」の〈通〉、「伎」の異体字として扱われている。
【休】説文に「广」がついた字体があるが、これに合致する例が見えない。南北朝時代は下に横線やれっかがつく。王羲之も興福寺断碑で横線付きの字体を書いている。唐代の楷書で

は横線がつくのは度人経1例だけ。日本の上代は横線つきも書かれる。干祿字書では横線付きの字体を〈俗〉としているが、康熙字典にはない。手書きでは咎無し点がつくことあり。
【仰】 仰の「印」が「印」と書かれることがある。手書きでは多くの場合「印」の1画目が左から右に書かれる。咎無し点

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	伎	伎					伎	伎				伎 伎 干祿(技の通) 中・台・香
	休	休	休	休	休		休	休	休	休	休	休 休 干祿(通) 中・台・香
	休	休										
	仰	仰	仰	仰	仰		仰	仰	仰	仰		仰 中・台・香
	件	件	件	件	件		件	件	件	件	件	件 件 坊っちゃん 中・台・香
	伍	伍	伍	伍	伍		伍				伍	伍 室町 尊門親王 中・台・香
	仲	仲	仲	仲	仲		仲	仲	仲	仲	仲	仲 中・台・香
	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳 中国
	任	任	任	任	任		任	任	任	任	任	任 中国・香港
	任	任										任 台湾

がつくことあり。文部省活字の字体は奇異に感じる。
【件】 段注本には載っていないが、大徐本に新附とも書かれていない。段注の抜けなのか、本来の説文にはなかったのか。
【伝】 この字種は、繁体と略体、正字と通用字、楷書と明朝体による字体の違いがよくわかる。中国簡体の簡体字は草書の

字体。「伝」はなぜこう略すのかわからない。
【任】 中国の古代から日本の江戸時代まで正字も含めて傍は「王」ではなく「王」とする例が多い。台湾の明朝体も傍は「王」。殷代は「王」でなく「工」。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
伐	バツ うきる ほこる 常①								法華義疏
伏	フク ふす ふせる したがう 常①								王勃詩序
位	イ くらい 教4常①								聖武天皇雜集
何	カ なに なん いずれ 教2常①								王勃詩序
									風信帖
伽	カ き とぎ 人①								豐替指歸
佐	サ すけ たすける 教4常①								聖武天皇雜集
									趙志集
作	サク サつ くる なす 教2常①								王勃詩序
									空海 金剛般若經問疏
伺	シ うかがう 常①								王勃詩序

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
伐	伐	伐	伐	伐			伐	伐		伐		伐
元暦萬葉⑦	節用	人4		ころ								中・台・香
伏	伏	伏	伏	伏			伏	伏	伏	伏		伏
元暦萬葉⑦	節用	人4		坊っちゃん								中・台・香
位	位	位	位	位			位	位	位	位	位	位
元暦萬葉①	農家文章大全	人5		坊っちゃん								香港 中国・台湾
何	何	何	何	何			何	何	何	何	何	何
元暦萬葉①	節用	人5		坊っちゃん								兼合・墨流本朗詠 中・台・香
何	何			何								何
元暦萬葉④	本願念仏利益草			坊っちゃん								江戸・五条俗談集
伽	伽	伽	伽	伽			伽	伽				伽
日本紀實登和歌	節用	人5		ころ								中・台・香
佐	佐	佐	佐	佐			佐	佐	佐	佐	佐	佐
元暦萬葉①	節用	人5		坊っちゃん								北宋・蔡京 中・台・香
佐	佐											佐
元暦萬葉①	本佐録											兼合・墨流本朗詠 中・台・香
作	作	作	作	作			作	作	作	作	作	作
元暦萬葉①	節用	人5		坊っちゃん								中・台・香
作	作			作								作
尼崎萬葉⑥	節用			坊っちゃん								中・台・香
作	作			作								作
雲紙本朗詠	節用			ころ								中・台・香
伺	伺	伺	伺	伺			伺	伺	伺	伺	伺	伺
元暦萬葉②	出世太平記	人5		坊っちゃん								中・台・香

【位】金文、古璽の字体は「立」だけでニンベンがない。
 【佐】説文にないためか干祿字書、五経文字、九経字様、開成石経のいずれにも見えない。「工」が「匕」になる異体字は中国の南北朝の頃から。
 【作】甲骨ではニンベンがない。漱石は草書の字体も使う。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期	
似	ジ にる		金文 侯馬盟書	説文・人部	馬王堆	敦煌漢簡	十七帖	王獻之 元彦墓誌 孔子廟堂碑	似	王勃詩序
			金文		馬王堆					
			金文		馬王堆					
住	ジュウ ずまう ずむ とどまる			説文不録			集字聖教序 維摩經碑 雁塔聖教序		住	法隆寺献物帳
伸	シンの ばす のびる のべる		戦国・金文	説文・人部	孟敬殘碑	自叙帖	晋祠銘		伸	五経・序
体	タイ てい からだ		中山王方壺	泰山刻石	武威漢簡				体	
體	②		郭店楚簡	説文・骨部	魯峻碑	武氏祠画像石	王羲之何如帖 張猛龍碑 雁塔聖教序	干祿・序	體	聖武天皇雜集
體	②		睡虎地秦簡		武威漢簡	張遷碑	十七帖	晋祠銘	體	法華義疏
體			睡虎地秦簡						體	麴巽指歸
躰								躰	法華義疏	
但	タン ただし		包山楚簡	説文・人部	居延漢簡	西嶺華山廟碑	十七帖	瞻近帖	但	瑠玉集
					武威漢簡	三老誥字目日記		王次妃石龜墓誌 昭仁寺碑		
佃	デン つくだ		金文	説文・人部					佃	
			金文							

【似】説文では「目」に「人」がついた字体。そもそも「以」が「目」に「人」がついた字だとしたら釈然としなない。「以」の「人」の部分は農耕具の柄の形ではないだろうか。古代の字体は「口」が加わっていたものもある。

【体】正(統)字体は「體」だが、隸書には「體」もあり、偏を

ニクヅキにしたものもある。草書は「體」をくずした字体だとおもう。干祿字書は「體」を〈俗〉としている。旁を「本」とする字体は、遅くとも唐代から現れる。太宰治が通(用)字体の「体」を書いている。

【但】漢代から右下の横線がナベブタ状になっている異体字

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
似	似	似	似	似			似	似	似	似	似	似	似
元曆萬葉①	高札之写	人5		坊っちゃん								似	中国
	節用											似	台湾・香港
住	住	住	住	住			住	住	住	住	住	住	住
元曆萬葉①	節用	人5		坊っちゃん								住	中・台・香
												伸	中・台・香
伸	伸	伸	伸	伸			伸	伸	伸	伸	伸	伸	伸
		人5		坊っちゃん								伸	中・台・香
体	体	体	体	体	体	体	体	体	体	体	体	体	体
藤原佐理評議紙	五常俗談集	人5		坊っちゃん	教科書(異字)							体	中国
體	體	體	體	體			體	體	體	體	體	體	體
元曆萬葉⑥	節用	音13		ころ								體	台湾
體	體	體	體	體								體	體
元曆萬葉⑦		身13										體	干祿(俗) 香港
躰	躰	躰	躰	躰								躰	躰
		音5										躰	躰
躰	躰	躰	躰	躰								躰	躰
元曆萬葉②	五常俗談集	身5										躰	躰
但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但
元曆萬葉①	本願念仏像章	人5		坊っちゃん	教科書(異字)							但	中・台・香
但	但	但	但	但								但	但
元曆萬葉①												但	但
佃	佃	佃	佃	佃								佃	佃
元曆萬葉⑩	節用	人5										佃	中国簡体

あり。「国定教科書に於ける正字俗字一覧表」で異字としている字体を漱石が書いている。